

タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4612		
科目名	危機管理特殊研究 2		
担当教員	吉田 正法		
対象学年	3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	水 3		
講義室	1312	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■DPコード 学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E 〔学識・専門技能〕 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP2-B 〔自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢〕 自己の存在意義を知り、自らを高め続けようと努力することができる。 DP3-G 〔状況把握力・判断力〕 自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。 DP4-F 〔探求力・課題解決力〕 問を設定し又は論点を特定し、それに対する問・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP4-I 〔理解力・分析力〕 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 DP6-K 〔表現力・対話力〕 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 DP7-C 〔他者理解・倫理観・公共心〕 人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。 DP7-L 〔協働力・牽引力〕 集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 DP8-M 〔省察力〕 知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■CRコード 学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すCOMMONルーブリック (CR) との関連 B1 自己開発 (5%) C1 倫理的試行・社会認識 (5%) E1 学識と専門技能 (10%) F1 探求と論拠 (25%) G1 状況把握 (10%) I1 理解力・分析と読解 (5%) K1/2 ライティング・コミュニケーション、オーラル・コミュニケーション (10%) L1 チームワーク (20%) M1 統合的・応用的学修 (10%)		
教員の実務経験	行政官として現状分析や政策提言の資料作成を指導した経験を踏まえ、各自の研究テーマに関する助言と指導を提供したいと考えています。（第2回～第15回）		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期		

科目概要・キーワード	危機管理に関する専門的な問題解決のために必要な知識やスキルを身に付けるための指導を行います。学生個人のキャリア形成にもつながるよう、学生自身が危機管理に関する具体的な業務、資格などに関する専門的な研究を行い、実務教員が中心となり実践的な指導を行います。担当する実務教員が、自らの実務経験に基づいたテーマの科目を設定し、学生が自らのキャリア形成に役立つ科目を選択します。危機管理に関する知識や教養を養うだけでなく、危機管理において必須となるコーディネート、マネジメントに必要な調整能力を身に付けることを目標とします。ここでは、危機管理に関する実務について、各自が研究テーマを設定し事例分析等を踏まえて実践的な指導を行います。授業形態は演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード 危機管理、安全保障、防衛法制	
授業の趣旨	■副題 危機管理の実務に必要となる基礎的な知識を学びます。 ■授業の目的 安全保障・防衛への関心を高め、日本の安全保障・防衛を考える上で必要となる基礎知識を学びます。 ■授業のポイント 危機管理特殊研究1では、軍事法の発展に大きな影響を与えた歴史的事象について学びました。危機管理特殊研究2では、危機管理特殊研究1で学んだことを基に、日本国憲法の下での日本の防衛政策・防衛法制の展開について学びます。	
総合到達目標	■日本の防衛政策・防衛法制を理解し、安全保障・防衛に関する様々な事象について自分の考えを述べ、他者の意見との比較でその長短を述べることができる。 ・自衛隊法制定までの動きを説明することができる。（第2～第3回） ・冷戦期の防衛政策・防衛法制を説明することができる（第4～第10回） ・冷戦後の防衛政策・防衛法制の展開について説明することができる。（第11回～第15回）	
成績評価方法	■授業参加度（60％）：適用ルーブリック C1・G1・L1 （評価の観点）発表、発言、質問、意見の交換など授業構築への参加度を評価します。 （フィードバックの方法）授業の場でフィードバックします。 ■レポート（20％）：適用ルーブリック E1・F1・I1・K1 （評価の観点）各回の予習ワークシートの内容を評価します（14回）。4年次の卒業研究の作成に向けて必要となるスキルが現段階で着実に向上しているかを評価します。 （フィードバックの方法）提出にコメントを付して返却します。 ■実技・パフォーマンス（10％）：適用ルーブリック K2 （評価の観点）4年次の卒業研究を発表するのに必要となるスキルが現段階で着実に身に付いているかを評価します。 （フィードバックの方法）発表に対してコメントをします。 ■ポートフォリオ（10％）：適用ルーブリック B1・M1 （評価の観点）学習の時間と内容等の記録用紙を回収し、適切な自宅学習がなされているかを確認・評価します。 （フィードバックの方法）フォームへのコメント又は講評の配布等を行います。	
履修条件	危機管理特殊研究1を履修していること	
履修上の注意点	ポータルサイト等を通じた連絡を定期的に必ず確認して下さい。 教員からの個別の連絡を受けた場合には必ず応答の連絡をして下さい。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス（全体テーマ、授業の進め方、評価の仕方） ②授業概要 授業の全体テーマ、進め方、評価の仕方を確認する。 ③予習（120分） シラバスの内容を精査する。シラバスの内容を踏まえて、この講義の受講を通じて達成すべき自分なりの成果の目標（例：15回の授業終了後に、この科目に関して他者からも認められるようありたいと思う自分の姿）を設定して書き出す。この目標を達成するための方策（例：よく判らなかつた部分を放置せず友人と相談する、オフィスアワーの時間を利用して教員に質問する）を考える。学習の記録をつける。 ④復習（120分） ポートフォリオ作成用のファイルを準備し、予習用資料・講義スライド・ノート・講評等を蓄積していく。自分の生活リズムの中で予習×授業×復習の時間を確保する学習計画（日課表）を作成して、学修のPDCAサイクルを始動する。計画の進捗状況を点検

	し、目標の達成にとって困難な点が生じていれば克服するための工夫を凝らす時期と予定を立てる。学習の記録をつける。
2	①授業テーマ 米国の戦後構想 ②授業概要 米国の戦後構想を踏まえた日本の国家再建について説明し、自分の考えを述べ、他者の意見との比較でその長短を述べるができるようにする。(B1・C1・E1・F1・G1・I1・K1/2・L1・M1) ③予習(120分) 参考書・参考文献を参照しつつ、要約(予習ワークシート)を作成して授業に持参する。学習の記録をつける。 ④復習(120分) その他の参考文献を図書館等で探して読み、論点の意義について考察する。学習の記録をつける。
3	①授業テーマ 日本の再軍備 ②授業概要 日本の再軍備について説明し、自分の考えを述べ、他者の意見との比較でその長短を述べるができるようにする。(B1・C1・E1・F1・G1・I1・K1/2・L1・M1) ③予習(120分) 参考書・参考文献を参照しつつ、要約(予習ワークシート)を作成して授業に持参する。学習の記録をつける。 ④復習(120分) その他の参考文献を図書館等で探して読み、論点の意義について考察する。学習の記録をつける。
4	①授業テーマ 日本国憲法と自衛隊 ②授業概要 自衛隊を創設する上での憲法解釈とその制約について説明し、自分の考えを述べ、他者の意見との比較でその長短を述べるができるようにする。(B1・C1・E1・F1・G1・I1・K1/2・L1・M1) ③予習(120分) 参考書・参考文献を参照しつつ、要約(予習ワークシート)を作成して授業に持参する。学習の記録をつける。 ④復習(120分) その他の参考文献を図書館等で探して読み、論点の意義について考察する。学習の記録をつける。
5	①授業テーマ 防衛二法の制定 ②授業概要 防衛二法における自衛隊と旧軍との違いについて説明し、自分の考えを述べ、他者の意見との比較でその長短を述べるができるようにする。(B1・C1・E1・F1・G1・I1・K1/2・L1・M1) ③予習(120分) 参考書・参考文献を参照しつつ、要約(予習ワークシート)を作成して授業に持参する。学習の記録をつける。 ④復習(120分) その他の参考文献を図書館等で探して読み、論点の意義について考察する。学習の記録をつける。
6	①授業テーマ 軍事法としての自衛隊法(軍紀に関する法) ②授業概要 自衛隊法における規律の維持に関する規定について説明し、自分の考えを述べ、他者の意見との比較でその長短を述べるができるようにする。(B1・C1・E1・F1・G1・I1・K1/2・L1・M1) ③予習(120分) 参考書・参考文献を参照しつつ、要約(予習ワークシート)を作成して授業に持参する。学習の記録をつける。

	④復習（１２０分） その他の参考文献を図書館等で探して読み、論点の意義について考察する。学習の記録をつける。
7	①授業テーマ 自衛隊の行動①（治安出動・警護出動） ②授業概要 警察権の行使に関する自衛隊の行動について説明し、自分の考えを述べ、他者の意見との比較でその長短を述べることができるようにする。（B1・C1・E1・G1・I1・K1/2・L1・M1） 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（１２０分） 参考書・参考文献を参照しつつ、要約（予習ワークシート）を作成して授業に持参する。学習の記録をつける。 ④復習（１２０分） その他の参考文献を図書館等で探して読み、論点の意義について考察する。学習の記録をつける。
8	①授業テーマ 自衛隊の行動②（対領空侵犯措置・海上警備行動） ②授業概要 領域警備に関する自衛隊の行動について説明し、自分の考えを述べ、他者の意見との比較でその長短を述べることができるようにする。（B1・C1・E1・F1・G1・I1・K1/2・L1・M1） 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（１２０分） 参考書・参考文献を参照しつつ、要約（予習ワークシート）を作成して授業に持参する。学習の記録をつける。 ④復習（１２０分） その他の参考文献を図書館等で探して読み、論点の意義について考察する。学習の記録をつける。
9	①授業テーマ 自衛隊の行動③（防衛出動） ②授業概要 自衛権の行使に関する自衛隊の行動について説明し、自分の考えを述べ、他者の意見との比較でその長短を述べることができるようにする。（B1・C1・E1・F1・G1・I1・K1/2・L1・M1） 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（１２０分） 参考書・参考文献を参照しつつ、要約（予習ワークシート）を作成して授業に持参する。学習の記録をつける。 ④復習（１２０分） その他の参考文献を図書館等で探して読み、論点の意義について考察する。学習の記録をつける。
10	①授業テーマ 日米同盟は機能するか ②授業概要 日米安保条約等に基づく日米協力について説明し、自分の考えを述べ、他者の意見との比較でその長短を述べることができるようにする。（B1・C1・E1・F1・G1・I1・K1/2・L1・M1） 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（１２０分） 参考書・参考文献を参照しつつ、要約（予習ワークシート）を作成して授業に持参する。学習の記録をつける。 ④復習（１２０分） その他の参考文献を図書館等で探して読み、論点の意義について考察する。学習の記録をつける。
11	①授業テーマ 自衛隊の行動④（災害派遣等） ②授業概要 災害派遣等に関する自衛隊の行動について説明し、自分の考えを述べ、他者の意見との比較でその長短を述べることができるようにする。（B1・C1・E1・F1・G1・I1・K1/2・L1・M1） 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（１２０分）

		参考書・参考文献を参照しつつ、要約（予習ワークシート）を作成して授業に持参する。学習の記録をつける。 ④復習（１２０分） その他の参考文献を図書館等で探して読み、論点の意義について考察する。学習の記録をつける。
	12	①授業テーマ 国際紛争等への対応 ②授業概要 国際紛争等に対応するための法的枠組みについて説明し、自分の考えを述べ、他者の意見との比較でその長短を述べるができるようにする。（B1・C1・E1・F1・G1・I1・K1/2・L1・M1） 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（１２０分） 参考書・参考文献を参照しつつ、要約（予習ワークシート）を作成して授業に持参する。学習の記録をつける。 ④復習（１２０分） その他の参考文献を図書館等で探して読み、論点の意義について考察する。学習の記録をつける。
	13	①授業テーマ 朝鮮半島有事への対応 ②授業概要 シナリオとしての朝鮮半島有事への対応について説明し、自分の考えを述べ、他者の意見との比較でその長短を述べるができるようにする。（B1・C1・E1・F1・G1・I1・K1/2・L1・M1） 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（１２０分） 参考書・参考文献を参照しつつ、要約（予習ワークシート）を作成して授業に持参する。学習の記録をつける。 ④復習（１２０分） その他の参考文献を図書館等で探して読み、論点の意義について考察する。学習の記録をつける。
	14	①授業テーマ ペルシャ湾危機への対応 ②授業概要 シナリオとしてのペルシャ湾危機への対応について説明し、自分の考えを述べ、他者の意見との比較でその長短を述べるができるようにする。（B1・C1・E1・F1・G1・I1・K1/2・L1・M1） 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（１２０分） 参考書・参考文献を参照しつつ、要約（予習ワークシート）を作成して授業に持参する。学習の記録をつける。 ④復習（１２０分） その他の参考文献を図書館等で探して読み、論点の意義について考察する。学習の記録をつける。
	15	①授業テーマ 台湾有事への対応 ②授業概要 シナリオとしての台湾有事への対応について説明し、自分の考えを述べ、他者の意見との比較でその長短を述べるができるようにする。（B1・C1・E1・F1・G1・I1・K1/2・L1・M1） 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（１２０分） 参考書・参考文献を参照しつつ、要約（予習ワークシート）を作成して授業に持参する。学習の記録をつける。 ④復習（１２０分） その他の参考文献を図書館等で探して読み、論点の意義について考察する。学習の記録をつける。
関連科目	危機管理基礎演習Ⅱ（RMGT2602）、危機管理特殊研究Ⅰ（RMGT4611）	
教科書		
参考書・参考URL	田村重信編著『新・防衛法制』内外出版株式会社、2018年、ISBN978-4-905285-92-2 内外出版『防衛実務小六法』内外出版株式会社、各年、ISBN978-4-905285-84-7	

	朝雲新聞社『防衛ハンドブック』朝雲新聞社、各年、ISBN978-4750920399
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 開講時に告知します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント10%：パブリックセキュリティ20%：グローバルセキュリティ65%：情報セキュリティ5% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学50%：法学50%

